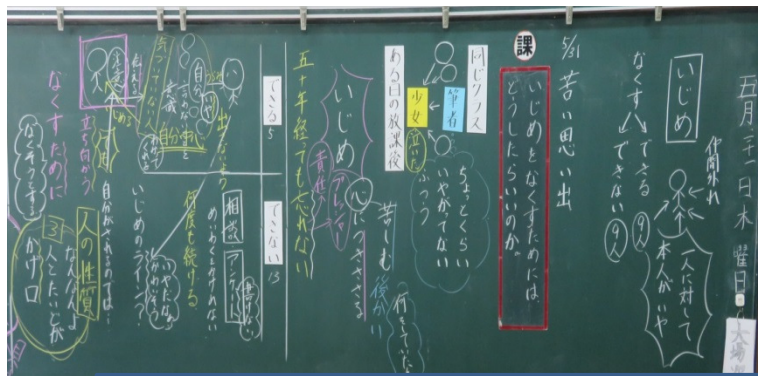


● 指導の実際

道徳科

本時では、「いじめ」をきれいごとや他人事としてではなく、自分事として考えさせるため、導入においては、「いじめ」に対する思いを自由に発表させることで、課題意識をもたせた。また、「いじめをなくすことができるのか。」という問いを導入時だけでなく、展開後段において再度問うことで、自分とのかかわりで道徳的価値について考えさせ、本時のねらいに迫ることができた。



児童の振り返り①

いじめはなくなるかもしれない。しかし、自分がいけないことだと信じこみ、それをつらぬき通し、自分がなくさないといけないと思うことが大切。しかし、人の性格でだれでも、むかつくことやイヤッとすることはあると思うが、相手のことを思いやり、助けてあげるといじめはなくなると思うし、人だからずっと、そうになってしまうかもしれない。だが、それを助けてあげることが大切。

児童の振り返り②

わたしは、いじめはなくなると思う。相手を思いやることができず、相手を悪く考えることしかできない人が、心が悪く染まっていじめにつながる。筆者みたいにすぐ気付く（自分で）ことができたらいいが、実際そうはいかない。いじめだと分かっているやってしまう人がいるから、いじめは、起きてしまう。でも何らかのことで途絶えることがあると思う。私だったらいじめを見かけたら「絶対立ち向かう」とちかう。

児童会活動【いじめ・暴力防止の横断幕の作成】

道徳の授業後、道徳科で学んだことが実際の活動に生かすことができるよう、全校で実施している「いじめ撲滅に向けての取組」につなげ、よりよい学校を目指す学校の一員としての自覚を高めることができた。



やっつはならぬ
やらねばならぬ
ならぬものは
ならぬものです



庄原市立西城小学校

- 一 「ありがとう」「こめんなさい」を言います。
- 二 わざとじゃなくても謝ります。
- 三 自分がされていやなことは、しませんが、困っている人がいたら助けます。
- 四 困っている人がいたら助けます。
- 五 見て見ぬふりはしません。

西城っ子いじめゼロ宣言



- たたかす ことばで おしえよう (一年生)
- いじめゼロ 大きな声で あいさつだ (二年生)
- ぼう力で かなしむ人たち なくしたい (三年生)
- 人をける それほりつばな 犯罪だ (四年生)
- 暴力は 自分の心も 傷つける (五年生)
- 「やめて!」その一言がみんなを変える (六年生)

いじめのない学校を作るための標語



<成果○と課題●、今後に向けての方向性◎>

- 「いじめはいけない」ということを理解するだけでなく、実際に行動できる場を設定することで、より道徳的実践意欲と態度を育てることができた。
- 道徳科で考え、委員会や学級活動等の特別活動とつなげることで、学校全体で「いじめを許さない」風土をつくることができた。
- 「いじめ」について考えることによって、「いじめは、どんな理由があってもいけない。」という質問項目について、100%の児童が肯定的な評価であった。一方で、「いじめを見たり聞いたりしたとき、いじめをやめさせようとする事ができる。」という質問については、年度当初94%であったものが、年度末には68%に下がり、否定的な回答が多くなった。特に高学年に顕著に表れた。その要因として、「いじめ」の原因や自分たちの身近に起こり得る事として捉えてきたからだと考えられる。
- ◎道徳科を中心に「つなげる」を意識し、年間を見通した計画的な道徳教育を実施していく必要がある。